

令和7年8月20日総合計画審議会専門部会A-3

参加者：阿部委員、江口委員、嶋野委員、平谷委員、中村委員

欠席者：なし

ファシリ：大塚さん 板書：河井

### ①公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展

○質問

委員

99床に減らすとあった。

補助金が出ないという話もあったが、公立芽室病院はどうか。

石田課長

2年連続の赤字なら出ることになるが、令和5年度は黒字なので出ない。

選挙で全病院と公約があったが、どうなるか現状は不明。

委員

時間外の金額が減っているが、時間数ではどうか。

石田事務長

時間について、資料は持ち合わせていない。

委員

業務プロセスの見直し効率化はどんなものがあるか。

岡山総看護師長

セル看護の導入。業務の効率化が図られた。

委員

昔、厚生病院で毎年健康診断を行っていた。毎年改善されているように感じたが、公立病院はどうか。

石田事務長

月に一度ミーティングを開いて見直しをしている。

○評価の妥当性

委員 C

成果指標の上昇、目標にも近づいている。  
新規事業、補助事業にも取り組んでいる。

委員 B

成果指標だけでなく全国的な状況を見て、経営改善対策などに取り組んだことを評価。  
コロナの補助金の無い現在の状況でこの決算は良いと感じる。

委員 B

赤字決算ではあったが、成果指標は伸びているため。  
大学病院が赤字の中評価

委員 C

成果指標から判断。職員の経営意識や広報等を評価。

委員 C

シートに記載の様々な取り組みにより、成果指標が着実に上がっている。

○今後の取り組みに対する意見

委員

部門別原価管理システム今後も続けていただきたい。

委員

患者者数を増やすのが重要。  
今後もかかりつけでいてもらうため、対応の丁寧さが重要だと思う。  
職員の経営意識を高くもって患者対応を。

委員

人口が減ると収入が減る。  
採算性等を考慮して診療科の見直しとあり、経営戦略をとる必要がある。  
マイナ保険証で病院をまたいだ情報が早く連携できると良い。

#### 委員

リハビリの在宅診療を更なる強化をしては。

施設型の介護施設が全国的には多い。病院が強化をすれば減るのでは。

オンライン診療進めていただきたい。

#### 委員

予防医療や回復期病床の機能を有した地域包括ケア病床の強化を希望。

公立芽室病院があるというのは安心感があって良い。

#### 石田事務長

収支でいうと収入も増えたが、経費も増えた。それに負けずに進めたい。

リハビリはニーズがあると考えている。力を入れていきたい。

#### 岡山総看護師長

病床稼働率が高く、その分職員も大変だが、職員1人1人意識が高まっている。皆さんに親しんでいただける、かかりつけ医として今後も続けていきたい。

## ②学校教育の充実

○質問

なし

○評価の妥当性

委員 C

成果指標は上昇下降混在している。

G I G Aスクール構想の推進のため I C T整備等環境整備を行っているなど文章から評価。

委員 E

成果指標が減少しているため後退と評価。

特に成果指標③「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合が減少。個人的にはここが重要だと考えている。分析が必要ではないか。

委員 C

成果指標②「自分には良いところがある」と回答した児童生徒の割合を重視。

ここが上昇すれば、学習姿勢などにもつながり重要と考える。

朝食については食べるとテストの正解率が高いという研究結果があるが個人的には重視していない。

委員 D

年によってばらつきが出るため学習状況調査は重視していない。

記載の中で、I C T整備、不登校支援、部活動など体制構築を行ったととらえる。

取組みは評価するが、向上しているなど記載がないため、この評価。

成果は今後出てくると見込んでいる。

委員 D

成果指標は上昇下降混在している。

そのためD評価。

現状の取り組みで目標達成できるとしているが、現状下降している成果指標もある。

下降している指標がある中で、目標達成できるとしているのは不安である。

坂口課長

現状取り組みはしているが下がっているのは実態としてあるが、R5から30人学級も取り組みをしており、学力調査については、テストの結果は上がっている。

そういったことから、今後の取り組みで目標達成できると判断。

○今後の取り組みに対する意見

委員

コミュニティスクール、部活動の地域移行見直しなどで、教員の負担が減る代わりに、教育委員会に負担が来るのではないかと思う。

子どもと地域のつながりが重要になっていくので、地域の学校にかかわる人を増やすということが重要だと思う。

委員

義務教育は国の根幹で、子供に必要な知識を身につかせ、自分で判断し、個々の可能性を伸ばすものであってほしいと考えている。想像する力をつけさせる教育であってほしい。

家庭環境によって学習の機会が奪われることのないようにしてほしい。

不登校が増えていると聞いているが、子どもの将来が見えない、親の支援も必要ではないか。全国学力・学習状況調査がメディアで取り上げているが、内容で取り合わず結果のみで判断されてしまうのはいかがでしょうかと考えてしまう。

不登校が増えている

通信高校に通う手立ては芽室町にはあるか。

課長

通信高校に通う生徒も以前よりは増えていると感じる。

委員

成果指標が下がった理由の原因を把握し対応を

委員

豊かな心、健やかな体の育成が重要。

そのためには、当然家庭でやらなければならないこともあるため、家庭と学校の結びつきが重要だと思う。

委員

「健やかな体」あって「豊かな心」が成り立って、結果として学力上がるのではないかと考える。

今後劇的な少子化などにより、登校に困難を抱える子供が増加し環境の変化大きくなると思う。子どもの気持ちを第一に考えてほしい。

教員は人事異動がある。芽室町の独自のポリシーを赴任した教員に伝えてほしい。

ICT教育については不安がある。

先進的にICTに取り組んでいた学校は学力の向上が望めず、やめてしまった学校もあると聞いた。

また、参観日で見ていると、PCと教科書を併用すると机が狭かったり、PCの起動がうまくいってない子どもがいたりした。

進めるのであれば、検証などはして欲しい。

坂口課長

コミュニティスクールなど学校を核に地域に協力を求めている。

教員だけでは足りない部分を学校地域ボランティアの協力を得ながら進めている。

家庭環境によって学習の機会失わないように、就学援助などを行っている。

また、ヤングケアラーなど今は確認できないが、出てきた場合には役場全体や社会福祉協議会など協力しながら、取り組んでいかなければと考えている。

「朝食を毎日食べている」割合に関しては、各課で個別に周知している。

しかし、家庭にまで届いてないのではと考えている。

家庭の中までは入れないので、今後もわずかでも周知をしていくしかないと思う。

ICT教育についてはPCありきと捉えられるが、紙も必要に応じ使っている。

今後も検討し状況に応じて進める。

嶋野委員

小学校から中学校に上がる時にPCが変わる。前の人の使用状況によって変わり、劣化の激しいものもあるため、使い続けられないか。

課長

中学校は1年ごと点検のため、入れ替えている。小学校から中学校への持ち上がりは今後検討する。

委員

生成AIについてはどうか。

坂口課長

教育研究所でどうあるべきか検討し取り組んでいる。それらの結果も参考にしながら、これから検討をする。

### ③地域で支え合う福祉社会の実現

○質問

委員

福祉活動とは。

杉山補佐

49団体ある。内容は、食事会やサロン、声かけ見守り、福祉関係の勉強会などある。社会福祉協議会で取りまとめしており、そこで確認をした。

○評価の妥当性

委員 D

成果指標の③住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合は57.8%に伸びているように見えるが、コロナ渦から開けたが策定時に満たないためD評価とした。

委員 D→C

成果指標を総合的に考えた。

再度見直し評価の変更を行った。

委員 C

成果指標が昨年と比較し伸びていると判断。

①ボランティア活動に参加した町民の割合は下がっているが、基準年と比較すると増加していると評価。

委員 D

成果指標は劇的に前進とは言えない。

コロナ渦があり比較が難しい。町内会の加入率など考えると前進しているとはとらえられない。

委員 C

成果指標①は計画策定時より上がっている。

②は策定時よりも増加。③前年から見ると増加。

担当課評価欄にも「前進と考える」という記載もあることから評価。

○今後の取り組みに対する意見

委員

今後の高齢社会は地域の助け合いが重要と考える

地域医療フォーラムで助け合いの部分が弱いとあった。

普段自分の生活でも減っていると感じる。

孤立している方を救えるように。

高度経済成長期に1人で生きていけると考える人や、他人に介入されたくない人もいるが、やはり重要だと考える。

委員

本町における地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会が担うとすれば、地域包括支援センターを今後任せれば、ますます連携強化を図れると思う。

一番高齢者に近いのは社協と考えると。

(回答不用)

委員

町内会の活性化が大事だと考えている。町内外の好事例の共有を。

解散した町内会があるが解散して何も問題が聞こえてこない。問題が無ければ他の町内会も解散してしまう恐れがある。そういったことも共有を。

2月の大雪の時に子供たちと近所の独居老人の雪かきした。何かあったときに協力し合える関係性の構築が大事だと思う。

委員

成果指標①にボランティア活動に参加した町民の割合とあるが、活動の参加だけではなく、先ほどの雪かきの話や、地域の助け合いといったことが重要と考える。

成果指標②たすけあい活動参加町内会（市街地）・行政区（農村部）数があるが、実際に活動をしているが、補助金の申請が面倒で申請をしないという町内会も聞いている。

そういったことを考えると、この数値で判断は違うと感じてしまう。

次期計画策定時に成果指標の見直しをしてはどうか。

委員

町内会加入率が半数を切っているのので、町内会が地域の主な団体としては機能していかないと考える。

マネジメントシートに具体策が無いと感じる。

東神楽町で公民館を中心にしたコミュニティある。芽室町であれば地域活動支援センターが町内会に足りないところを担えないか。

森課長

この施策の取り組みは、地域福祉の推進、住民個々人や及び団体、事業者、企業など幅広く地域資源と捉え推進している。支える側、支えられる側固定ではなく支えあうことが重要と考えている。

具体的な取り組みとしては、社会福祉協議会に補助金を出し、活動していただいている。健康福祉課で講演会も行った。

先ほど話のあった、補助金もらうのが手間だから出さないなど、そういったところは改善していかなければと思っている。